

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



岡田 悠里 (おかだ ゆうり)
金沢工業大学大学院工学研究科
バイオ・化学専攻
博士前期課程二年
山梨県立白根高等学校出身

未知の都市と大学でしたが 充実した環境での六年間でした。

進路に迷っているときに、担任の化学の先生から金沢工大を勧められた。就職率がいい大学だと。岡田さんは、予想もしていなかった。母校から金沢工大に来たのは初めてではないかというのだから、ムリもないだろう。知らない都市と大学で最初は不安だったけれど、「この大学は施設やサービスがいいですね。一人暮らしをする

ます。社会人として大事なことで、すごく助かっていますね。」生活環境研究所は大嶋研と藤永研と坂本研の合同で展開している。大嶋俊一准教授は分離分析化学・錯体化学・環境化学、そして藤永薫教授は分析化学・環境分析化学、坂本宗明准教授は有機材料化学を専門とされる。岡田さんにとつては、これも恵まれた環境であった。「この大学ではグループでのディスカッションや実験が多いので、コミュニケーション能力の向上にはすごく役立ちましたね。ほく自身、人見知りの性格だったけれど、そこで友人もできましたし、とりあえずやりたいことがなくても、何かが見つかるんじゃないかなと思いますし、就活のマナーなども教えてもらえますから。」

研究とはちがう分野だが、応用化学科の先輩が何人もいることや、半導体はこれからも伸びる分野だと思っただけで選択した。「研究テーマは『ピリジル基を有する5,5'-置塩基を修飾した新規キレート繊維に関する研究』。簡単にいうと工業製品の廃棄物の中から金属を回収して資源にするための研究で、金銀・白金・レアメタルなどが対象ですね。エンジニアとしては、マルチで活躍できればいいなあと。会社でもいろんな部署を経験させてもらえるので、一つの分野に特化するよりは。」

金沢での六年間は、岡田さんを逞しく成長させた。金沢工大に飛び込んだ決断であり、その後積み上げた学力によるものであろう。高校と大学の先生に、かけがえのない恩師を発見したのである。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七一
電話番号(〇七六)二四八二二〇〇